

# 紅魔館の魔法使い

ねこ饅頭

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

いつもと変わらない、いつもどおりの紅魔館

今日もそんな一日が過ぎる

くそう思っていたく

だが・・・今晚は違った

突如紅魔館が雑魚妖精に襲われる

レミリア、咲夜が奇襲に合う中

危険を感じたパチュリーノーレッジは小悪魔とフランを逃がすことにした

それぞれが

バラバラになってしまった紅魔館メンバー

一体どうなってしまうのか・・・

目次

## 紅魔館 異変の始まり

※東方project二次創作です  
シリアス

いつもと変わらない、いつもどおりの紅魔館  
今日もそんな一日が過ぎる

くそう思っていたく

それは突然の出来事

ドツカーン!!ガラガラガラ・・・(城壁が崩れる音)

レミリア「うるさいわね・・・一体誰の仕業なの?」

まだ眠りについていたレミリア・スカーレットは謎の音によつて起きた

そんな寝起きで体がわかっていない所に、十六夜咲夜が現れた

咲夜「お嬢様!、侵入者です・・・!お逃げください・・・!」

レミリア「なによ昨夜、そんなに息を切らせて・・・侵入者ぐらいあな・・・」

昨夜のいる方に顔を向けた瞬間

レミリアの表情は変わった

レミリア「えっ・・・ちよつと昨夜・・・どうしたのよ・・・その傷・・・!!」

レミリアの視線の先には、脇腹から血を流している昨夜の姿が映った・・・

咲夜「妖精たちが突然現れ、

この紅魔館に侵入してきました・・・ゲホツ・・・ゲホゲホつ・・・!」

前方の扉から、何故か重機を持った雑魚妖精がたくさん出てきた。

妖精A「敵発見。この主とみられる。絶対に逃がすな。」

レミリア「わかったわ、咲夜、あなたが逃げなさい・・・」

(咲夜「しかしお嬢様h・・・」いい!?!?!)(紅魔館)は私の場所よ・・・  
厄介事は、主人がやることよ・・・」

咲夜「わかりました・・・お嬢様・・・」

ゆつくりと昨夜を寝かせる  
レミリア「いったい誰の仕業かわからないけど・・・覚悟はいいわね？妖精ども！」

・・・その頃紅魔館地下・・・

フラン「なんだろう、外が騒がしいね・・・」

フランドール・スカーレットは起きてはいたが上のできごとにはさつき気がついたようだ。

外に出ようと、扉を開け用とした瞬間・・・

バンツ!! (扉を勢いよく開ける音)

フラン「ふああ!?びっくりしたあ! って、パチュリーとこあ?」

息を切らして現れたのはパチュリー・ノーレッジと、その司書小悪魔だった。

パチュリー「小悪魔! フランと一緒にここから逃げ出さない! さつき教えたところから出れるはずよ!」

小悪魔「パチュリー様はどうするんですか?」

パチュリー「上の連中を食い止めるから、先に逃げるのよ!」

フランが放って置かれるまま、会話が進んでいた

気がついたら小悪魔に手を握られ、出口へ走っていた

フラン「ちよつと待って! 状況がわからないよ!」

小悪魔「このことは後で話します! 今はついてきてください!」

二人が走り去る廊下の上には

パチュリーの帽子が転がっていた・・・

紅魔館の裏にある森に身を潜めたフランと小悪魔

小悪魔『ここまでくれば、しばらくは安全でしょうかね・・・』

フラン「さあ、説明して頂戴! こあ!」

小悪魔「は、はい、( ; . . ∇ . . )」

小悪魔は出来事を話した。

小悪魔「追先ほど、何人かの雑魚妖精が紅魔館に侵入しました。

侵入してきたのはタダの『雑魚妖精』ではなく、なにやら重機を持った妖精たちでして、それに『いつも以上に強かった』んです。「おそろく美鈴さんはやられたと思います・・・」

フラン「うそ・・・美鈴がやられるなんて・・・そうだ！お姉様はどうしたのよ！」

小悪魔「レミリアお嬢様は咲夜様がにがしにいつてるはずですよ・・・」

フラン「無事だといいな・・・(涙を流す)」

小悪魔「フラン様・・・」

小悪魔「それにしても、パチュリー様、遅いですね・・・もしかして妖s」

フラン「悪い方向に考えるのはやめて！」

小悪魔「ですわね・・・パチュリー様がやられるはずがないですわね！」

妖精A「こつちからなんか物音がしたよー！！」

小悪魔「！！　フラン様移動しましょう！敵が近くに來たみたいですよ！」

フラン「う、うん」

二人は紅魔館を背後に後にした・・・

→紅魔館内レミリアの部屋にて→

レミリア「はあ・・・はあ・・・なんなのよ、一体・・・」

「なんでこんなに雑魚妖精が強いなのよ・・・一体どうなって・・・」

???「へえ・・・意外といいところじゃない・・・私の家にしようかしら・・・」

静かな空間に一つ、足音が響く・・・

レミリア「誰!？」

???「あらあらこれはレミリアさん・・・いや・・・『おぜう様』かしら?」

なぜか黒いコスチュームのリリーホワイトが角から姿を現した。

レミリア「どうしてあなたがここにいるの?」

リリーホワイト「・・・春ですよ・・・なんてね☆」

その次の瞬間、リリーの両腕からまばゆい光が現れた

『レールガン』である。

なぜ彼女が『弾幕』ではなく『銃』を使ってくるのか・

レミリア「ちよっ・・・」

さすがのレミリアもこれには驚いた。

一瞬の好きを突かれ、光とともに外に出された。

ガツシャーン!! (窓ガラスが割れる音)

リリー「それはまだ言えないので、秘密DESU☆」

リリーはレミリアが飛ばされたのを確認すると

地面に横たわっていた十六夜咲夜の姿を見る。

リリー「ふむ・・・これは??? (名前伏せ) に連絡しようかしら・・・」

くたった10分で紅魔館が支配された。く

・・・その頃・・・

パチュリー「なんとかにげきれたようね・・・」

パチュリーはまだ紅魔館にいた・・・

続く